

<b>1 学校教育目標</b> 平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立つて社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。 ・地域を愛し、地域から愛される有工生を育て、地域に根ざした学校として更なる発展を目指す。 ・学力の向上を目指し、部活動にも取り組む、光り輝く有工生を育てる。 ・高い志を持ち続ける、チャレンジ精神豊かな有工生を育てる。	<b>2 本年度の重点目標</b> ①挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ②進路保障に繋ぐ意欲的な学力向上と資格取得 ③志をもった部活動と生徒会活動の展開 ④保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進を図るとともに、業務改善を進める ⑤5S運動(整理、整頓、清潔、清掃、躰)とUDの推進
--	--

達成度  
A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

①挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	基本的生活習慣の確立	・挨拶・服装・マナー指導の徹底	・定期的な登校指導を実施し、登校してくる生徒への声掛けや挨拶を積極的に行う。 ・年間6回の服装・頭髮検査の実施と、女子の化粧、正しい身なりの指導を全職員と連携して行う。 ・携帯電話のマナーを守るように指導する。	B	・年度初め・長期休業明けなど、ポイントを絞り登校指導を行った。年度当初や前期は指導対象の生徒が数名見られたが、入室前の登校指導の折にその場で指導を行ったり再登校指導により身だしなみを整えさせる指導は徹底できた。	・登校指導での早めの気づきや指導の徹底は効果がある。また、担任との情報共有も大切にし、全職員で協力した身なり指導をおこなっていく。
		基本的生活習慣の確立	・交通安全教育と交通マナーの遵守	・年間の登校指導を通して、原付・自動車・自転車通学者に対してマナーの徹底を呼び掛ける。 ・関係機関と連携し、学校周辺のパトロール依頼や交通安全講話を実施する。	A	・6月に講師を招き「防犯交通安全講話」、12月初旬には免許取得者に対し、生徒指導部主催の「校内交通安全講話」を行ったことで、交通マナーについての規範意識が身に着けさせることができた。	・全校生徒に対する「防犯交通安全講話」はもちろんだが、免許取得と運転を許可している定時制においては、免許取得者に対する注意喚起および講話をしていく必要がある。
	○保健厚生	給食指導の充実	・給食の約束事を守らせる。	・職員給食当番を設定し、共通理解のもと指導を行う。	A	・4月初めの学校生活の手引きによるオリエンテーション、給食室内の掲示物、担任の先生方と給食指導当番の先生の日々の声掛けにより、ほとんど全員の生徒が注意を受けることなく約束事を守って給食をとることができた。	・予定を立てやすく伝達をスムーズにするために、日報に給食指導当番を記載し、共通理解を深める。
	●健康・体づくり	健康保持・増進	・健康に関する意識を高めさせる。	・保健・健康に関する講演会等を実施する。 ・保健だより等、保健に関する情報を生徒・保護者に提供する。 ・健康診断の結果を生徒・保護者に知らせ、健康への意識向上を図る。	B	・家庭的な事情等で、病院受診等が困難な生徒もおり健康意識の向上へのつながりにくさがあるが、健康診断結果を、年に2回(三者面談時・12月)配布を行った。また、保健だよりで健康調査結果を記載したりと、健康への関心が持てる取組みを実施することはできた。	・健康への意識向上のために、現在行っている取り組みを継続する。また、家庭的な問題を抱えた生徒もいるので保護者への働きかけに加え、本人自身が健康意識をもてるように”個別指導”を充実させていきたい。
		望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・食に関する意識を高めさせる。	・食に関する講話等を実施し、関心を高める。 ・喫食率の低い生徒について、個別の食育指導を行う。 ・ワークショップを実施し、食に関する体験をする。	B	・講話を聴く姿勢と感想文から、生徒の関心の高さを感じることができた。給食をとらないことが常習化した生徒への個別の声掛けを度々行ったが、喫食率が低い一年であった。根気強く、指導を続けたい。	・講話の事前・事後の指導や給食との関連を工夫し、食に関する意識をより高めさせる。欠席を少なく、給食に間に合う時間に登校することが当たり前となるように、学校全体の共通理解のもと、全職員で協力して指導をする。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	・年3回のアンケートを実施 ・日々の生活やアンケート記載において「からかい・いじり等」の内容にも早期に対応し、情報共有し多数の目で見守る	・いじめ予防教育と早期発見、早期対応の取り組みを心掛ける。 ・教育相談と連携し、悩み等を相談しやすい環境づくりをする。	A	・年3回のいじめアンケートを実施した。生徒の気になる記載があった場合などは迅速に担任面談や聞き取りを行い、必要に応じて教育相談やカウンセラーとも連携した。また、場合によってはいじめ体罰等対策委員会を開き、情報共有および覚知・認知の判断を速やかに行った。	・次年度も引き続き年3回のアンケートを実施し、目に見えない生徒たちの困り感や悩みなどを把握していく。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の推進	・人権・同和教育に関する職員の共通理解をはかる。	・外部から講演者を招き、人権問題への啓発活動に努める。	B	・「お互いを大切にしていよりよい関係を築く」をテーマに佐賀県DV総合対策センターより講師を招聘し、人権問題への啓発活動をおこなうことができた。 ・「情報モラルと人権」をテーマにホームルーム活動を実施することができた。	・講演会の実施だけでなく、普段の授業や学校生活においても人権意識を高めることができるよう、地道な取り組みを考えていきたい。
②進路保障に繋ぐ意欲的な学力向上と資格取得							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	学力保障	・出席率90%の達成	・職員に向けて、昼礼連絡時に全日の出席状況を確認する。欠席の多い生徒については、本人面談を行い、また保護者との連絡を取り家庭との連絡を図る。	B	・昼礼時に前日の出席状況を全職員に向けて確認をとった。 ・SHRに出席できていない生徒の家庭にも各担任から連絡を取った。	・家庭によって連絡が取れる取れないが大きく違う。年度初めの三者面談で保護者が連絡を取れる時間を必ず聞くなど対応が必要だと感じた。また本人面談も担任だけでなく、教務や科長の協力を得ながら行った方が効果があるように思う。
			・単位履修率100%、修得率100%を目指す。	・毎週欠課時数一覧を担任に確認してもらう。前期の欠点保持者に対する指導を例年より早期に実施し、保護者の協力も得ながら生徒の指導に当たる。	B	・再三にわたり担任へ生徒の欠課時数の確認を呼びかけた。前期の欠点保持者や欠課時数の多い生徒に対する指導を早期に行うことができた。	・日常的に安易に欠席をする生徒がいるので、担任からだけではなく教務からも定期的に保護者の協力が得られるように連絡をする。
教育活動	○資格取得	資格取得指導	・受検者の延べ人数を生徒在籍数の52%、合格率が全受検者数の50%を目指す。	・年間の資格検定の実施日程を年度当初に生徒へ告知し、受験を呼びかける。また、合格者による単位取得についてや、ジュニアマイスター顕彰制度についても周知する。合格に向けた学習時間確保のための十分な補習日程を設定する。	B	・受検者の延べ人数は生徒在籍数の117%、合格率は全受検者数の51%で数値目標は達成した。学校評価アンケートでは職員・生徒から補習の学習時間が十分ではないという回答であった。	・引き続き、資格検定の実施日程を生徒へ告知し、単位取得やジュニアマイスター顕彰制度についても周知する。 目標値は達成しているが、実際は積極的な生徒の受験と合格、授業と運動した受験者数で目標値をクリアしているの、多くの生徒が広く受検するような雰囲気づくりと担当者からの声掛けが必要と思われる。学習時間の確保については、全体の検討課題である。
	○就業指導や進路指導の充実	就業保障	・就業希望者の就業率80%を目指す。	・求人情報を積極的に収集し、未就労生徒への紹介・斡旋をする。生徒の就業状況や就業希望を把握し就業を促す。事業所と連携をとりながら仕事への定着を図る。	B	・ハローワークからいただく求人情報は毎週2度生徒へ提供した。 ・未就労生徒への声掛けや職場斡旋は積極的に行った。しかしながら、就労には結び付けられない生徒がいるのも実情としてあった。また、職場を斡旋してもすぐに辞めてしまう生徒もいて困難を感じた。	・ハローワークからの求人情報はありがたいが、ここ2年間は生徒からの反応が見られず、直接ハローワークを訪れるケースと進路指導部長へ紹介を求められることが多かった。また、アルバイトを短期間に変わる生徒も多く、対応に苦慮するケースも出てきた。改善策が難しい。
		進路保障	・就職・進学率100%を目指す。	・進路面談、面接指導の充実。全日制進路指導部、ハローワークと連絡を密にし、進路情報収集を確実に行う。保護者・本人の進路希望を把握し、適切な選択ができるよう1年次から計画的に指導を行う。	A	・夏季休業中に6日間集中的に生徒の就職に向けた計画的な指導を行った。また、昨年度より、面接指導も組織的に行うことができた。 ・昨年度より、学校行事の中に年間を通した進路指導の時間を設定し段階的な指導を心掛けた。	・夏季休業中を利用して卒業学年の生徒には集中して進路実現のために対策を講じているが、どうしても推薦会議や履歴書作成に手間取り応募書類の発送が滞ってしまうので、早めの対策が必要である。
③志をもった部活動と生徒会活動の展開							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒会 (部活動、文化祭等の行事の推進)	文化祭等の行事	・体育館行事のスマート化及び共同作業への積極的参加	・体育館行事の時間配分や共同作業の内容を具体的に検討する	B	・体育館行事は例年と比較してとてもスムーズに実施できた。生徒は共同作業に熱心に取り組んでいた。	・共同作業の内容は検討してみてもよいが、生徒の表情や取り組み姿勢から、同じ内容で継続してもよいと思う。
	●心の教育	ボランティア活動	・地域奉仕活動への取り組み強化	・年2回の地域奉仕活動を行うことにより、奉仕の心を育成し、地域への感謝の心を育てる	B	・各学年で自ら積極的に清掃活動を行う生徒が見られた。	・奉仕活動を始める前に、活動を行う意義などを説明する時間を確実に確保する。
	●志を高める教育	目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・高い志を持った部活動への取り組み ・体育部・定通野球、定通総体への積極的取組及び練習の効率化、文化部・各種公募展への出品	・全国大会出場および各種公募展への出品を目標とすることで高い志を持ち、その達成に向けたチャレンジ精神、努力の大切さを指導する。	A	・高い志を持って取り組んだ結果、軟式野球部が全国大会ベスト8、新聞部が佐賀県高等学校新聞コンクールで最優秀賞を受賞するなど優秀な成績を収めることができた。	・高い志を持った部活動への取り組みを継続し、結果やそこに至るまでのプロセスの大切さを指導し、達成感を実感させる。
④保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進を図るとともに、業務改善を進める							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
進学 営校	○開かれた学校づくり	保護者との連携	・PTA総会への出席率45%を目指す。	・PTA総会の事前通知の徹底と、案内文書が確実に保護者へ渡るように指導を行う。 ・総会内容の充実を図る。(給食試食・授業参観・クラス懇談会・個人面談等)	B	・PTA総会当日は、授業参観や給食試食会及びクラス懇談会など内容を豊富にして、事前通知を3回行い、職員全員で保護者への連絡を徹底する方策を取ってみたが、当日の参加者は36%であった。	・全日制の対策を参考にして、2回開催で計画してどちらか1回は参加しなければならないという方法をとり、都合欠席を減らして出席率を上げる。3者面談を組み入れる。
		企業との連携	・事業所訪問により、企業との連携を図る。	・事業所からの要望、意見を把握し、生徒の指導に資する。	B	・前期と後期の2回に分けて事業所訪問を行い、生徒の勤務態度等の気づきを訪問者が記録表に入力してもらった。訪問記録表をデジタル化することで明確にした。	・担任や教科の先生に訪問記録表を活用して情報を共有することに繋がればと思う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の平準化と会議の効率化	・業務改善に関する意見集約を年に2回(前期・後期)行い具体的な改善計画を策定する。 ・会議時間の前年比10%減を目指す。	・業務改善に関する意見を集約し、業務の平準化を行い、職員の専門性を向上させる時間と教材等の準備に充てる時間を捻出する。 ・ICT利活用を推進し、事務業務の簡素化、会議の効率化を図り、職員が生徒と向き合える時間を充実させる。 ・定時退勤、年次休暇取得を促進し、必要に応じて休養または医療機関受診ができるような職場内の相互関係を築く。	B	・ICT利活用による業務の効率化については、年度当初から取り組み、途中で新システムへの移行もあったが、概ね問題なく出来ている。また、年次休暇等の取得率も高く、ワークライフバランスがとれているものと思われる。一方で、大幅な改善策のアイデアは中々出てこないのが現状である。	・ICTの利活用については今後も継続的に行う。また、新学習指導要領への移行も近いことから、新しい時代に育てていきたい生徒像をはっきりさせ、それを達成するための教職員の専門性向上に使える時間の確保を目指していく。
⑤5S運動(整理、整頓、清潔、清掃、躰)とUDの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
活動 教育	○保健厚生	学校環境の整備・美化	・学校環境の整備・美化への意識を高める。	・月に一回を目安に清掃活動を行う。また、年度末に大掃除を実施する。 ・安全点検を毎月実施する。	B	・部活動の関係で5月の清掃活動は未実施。大掃除を含め年7回実施した。 ・月ごとに点検者を変えて、新たな視点で施設設備の安全を確認するよう工夫した。	・月行事が確定してから、清掃活動の実施日を決定するようにしたい。 ・一斉に清掃活動が始められるよう、校内放送によるアナウンスやチャイム設定は続けていきたい。
4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組							
近年では、生徒の多様性が大きく目立つようになり、中学校等での不登校傾向生徒の占める割合が大きくなってきている。学習面では、これまで十分な学習を積み重ねることができなかった生徒も多く、学びたいという意欲は多くの生徒が共通して抱えている。そのため、授業への取り組み方は熟練で意欲的であるが基礎学力が十分身についていない生徒も多いため、学び直しの時間も確保しながら学習指導に当たっている。生徒指導面では、年度当初は幾つかの問題行動等見られたが、徐々に学校生活も落ち着きを見せ過ごすことができるようになった。ここ数年は欠席率の低下が顕著に見られるようになり、担任からの生徒及び保護者への声掛けや、教務担当者での生徒面談などを行ったが大きな効果は得られなかった。今後は、入学時より授業への興味関心を喚起できるような教育課程の編成など検討していきたい。また、ちよっとしたつまずきが原因で休学や退学を余儀なくされる生徒もいるため、全ての職員が生徒理解に努め、職員全体で本校の教育目標実現に向け邁進していきたい。							

●は共通評価項目、○は独自評価項目